

# 副会長・新任のごあいさつ



岩田 規 (第十五回卒)

このたびの役員改選に当たり副会長の末席を汚すことになりました。たまたま、その席上、二千万円基金目標達成の報告を受けました。同窓会は、母校発展に寄与することが目的の最たるものであり、基金運用も一つの役割を果たすことになりましょう。

今や、母校は県下有数の進学校として、着々頭角を現わしてまいりましたが、一方、創立以来「サッカーを校技」とした歴史も燦然と輝いておられます。昨年は、「サッカー六十年のあゆみ」が発刊されました。一回生からの思い出に感激しました。しかし、この伝統も最近少しかすんできたのが気になります。サッカー戦国時代の本県を象徴しているとは言え、いつまでも低迷していることは歯がゆいことです。伝統を誇れるものに再建する必要を感じます。

志太中在学当時交付された生徒心得綱領の中に「和衷協同、先進後輩一体となり愛校の志気を発揚すべし」というのがありまして、更に六十周年を一つの節として、更に飛躍するために、この精神は今でも引き継がれるべきものと信じます。微力ではありますが、伊村会長に協力し、同窓会運営のために努力したいと存じております。どうぞよろしく願います。



元講堂・現図書館



母校のシンボル・蹴上王者像



井田 久義 (第二十八回卒)

今般、若輩者の私が役員皆様の御推挙を戴き、母校同窓会副会長を仰せ付けられ誠に光栄に存じます。未熟者であり、諸先輩方の御指導を得、同窓会の充実と母校発展に努める覚悟です。

昭和三十年に卒業以来結婚式とか、同窓会の席で蜜声をはり上げ、校歌を歌う以外、疎遠になる一方でした。昭和四十四年、野球場監督を要請され三年間、短い期間でありましたが、毎日母校に通い、野球部員と共にグラウンドで汗を流しました。当時の部員も、今は立派な社会人、各地でリーダーとして活躍しています。元監督として、こんなに嬉しい事はありません。校歌にありませぬ「至誠一貫」の言葉が好きで、以来「至誠一貫」を座右の銘とし過ごしてまいりました。

昭和五十五年志太郡議補選で皆様の温かい御支援、御協力で当選。現在二期目として、県政発展と地域の活性化の為、働かせて戴いております。昨年は母校創立六十周年記念式典にも参列し感激しました。青少年の非行が、社会問題化している現在、多くの有能な人材を輩出している母校の教育の使命は、日本の将来にとって誠に重大です。一万四千余名の同窓生の、一層の御活躍と母校の御発展を、心からお祈りし、御挨拶いたします。よろしくお願ひ申し上げます。



恩師から

## 不去不來

加藤 春光

私は今年の三月末日をもって退職しました。顧みると、今までなんと教えきれない位多くの人ののおかげで、よくも、この六十年、有難くも生かさせていただいたと感謝するばかりです。

ただ一筋のまっすぐな道を無我夢中で過ごしてきた今、母校のグラウンドにある松の木をみるにつけ、東高の皎潔たる年輪の重みを感じると同時に、私はこの湛然とした本流の中を何もわからぬままに流注してきただけだったと恥ずかしく思います。現在、小寺の住職として、八月盆に檀家の棚経に廻ったときその家の十年、二十年の流れと

## 「同窓会員名簿」と「サッカー六十年のあゆみ」発刊

希望者はお申し込みを

学校創立六十周年記念事業の一環として同窓会では会員の方々はじめ多くの関係者のご協力を得て「同窓会員名簿」および母校創立以来学校の象徴として受け継がれてきた校技「サッカー六十年のあゆみ」を一冊にまとめた写真集「サッカー六十年のあゆみ」を発刊いたしました。すでに多くの方が購入されておりますが、若干残部がおりますのでご希望の方は至急お申し込み下さい。

昭和四十八年発行以来約十年ぶりに増補改訂を行い昨年十二月十日に発行、昭和四年志太中学校第一回卒業生から昭和五十七年度藤枝東高等学校入学までの約一万五千名に及び会員の消息が収録されています。

志太中学校生として入学された方々は各学年毎、藤枝及び藤枝東高等学校として入学された方(昭和二十五年四月以降入学された方)は各クラス毎、原則としてそれぞれアイウエオ順に整理しました。また索引も改姓された方は新姓旧姓ともに掲載しました。さらに歴代校長、歴代同窓会長の写真も載せるなど若干工夫を凝らしました。ご希望の方は下記に



お申し込み下さい。  
郵便振替東京三〇三三〇五  
送料とも三千六百円

戦後の学制改革により母校が高等学校として再出発し、新聞部が結成されて以来延々三十年以上の長きにわたって発行され続けてきた「藤枝東高新聞」(志太高新聞)「藤枝高新聞」も本年七月で百三十三号に達しました。

卒業以来五十年目を迎え、八七名の同級生も、既に鬼籍に入れた三二名、不明七名、体調の悪い方、自治会等の関係で出席出来ない等で、残念ながら十九名でしたが恩師の桑原先生、小宮山先生も御出席され二名の少人数ながら盛大に行われました。

## 四年ぶり関東支部会盛會に

支 部 会 だより

昭和五十七年九月十七日(金)四年ぶりに関東支部会が開かれた。会場は例によって東京芝パークホテル(支配人、第二十五回卒、原田収氏)。

今回は昭和二十五、六年度藤枝高校西教場(現藤枝西高)卒業生を招待しての異例のはなやかな支部会であった。

## 六回生会 (六志会)

恩師を囲んで

久しぶりに開催した昨年の同級生会、今後毎年五月十五日開催と決定した六志会は、本年はその昔野外演習で、重い三八銃を右手に砂に足を取られながら駆け回った用宗海岸竜宮亭で開催となりました。

卒業以来五十年目を迎え、八七名の同級生も、既に鬼籍に入れた三二名、不明七名、体調の悪い方、自治会等の関係で出席出来ない等で、残念ながら十九名でしたが恩師の桑原先生、小宮山先生も御出席され二名の少人数ながら盛大に行われました。

恩師を囲んで (六志会)



## 編集後記

昨年は学校創立六十周年記念行事のため同窓会事務局も「同窓会員名簿」「サッカー六十年のあゆみ」の編集などに追われて「志太中・藤枝東高同窓会報」発行を休止してまいりましたが、この二年ぶりに第九号ができました。みなさまにお届けすることにいたしました。